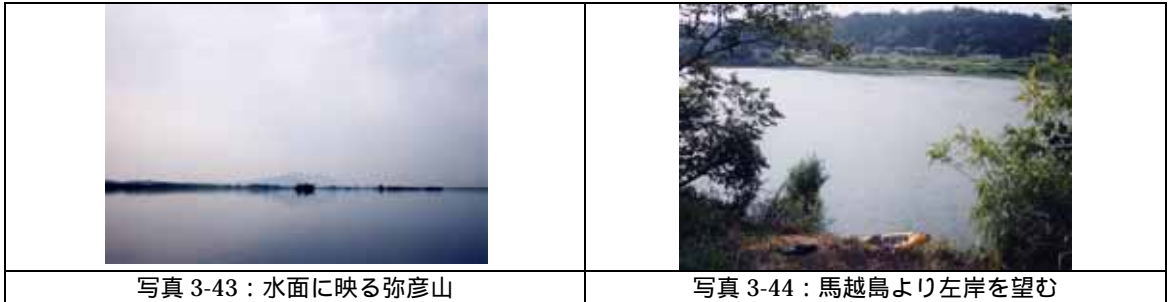


3.3 長岡 分水間カヌー調査 平成 15 年 9 月 8 日

平成 15 年 9 月 8 日、長岡市蔵王橋左岸側より、カヌーによる調査航行を開始した。長岡 分水間の航路は川幅が広く、全線において川から堤内地が遠い印象を受けた。高水敷が水面よりかなり高いところがあり、堤外地の多くは田畑で樹木の中には特に背の高い高木が点在し、写真 3-42 のように遠くからでも確認できるものもあり、風景のアクセントとなっていた。

橋はこの航路において大河津分水以外ではもっとも大きな構造物であり、重要なアクセントとなって重要なランドマークになるといえる。



3.4 小阿賀野川カヌー調査 平成 15 年 10 月 7 日

平成 15 年 10 月 7 日、小阿賀野川を万願寺水門から信濃川合流点までカヌーで下る調査を行った。信濃川に比べ河道幅が狭く、蛇行などによって見通しが悪くなっている箇所が多い。また、信越本線の鉄道橋は河道の真中に橋脚があるため、船の航路を狭めていた。



信越本線より下流は現在、能代川の治水事業に関連した大規模な工事が推し進められており、土やコンクリート、鋼矢板が目立ち、自然の生命力、人の生活感など、風景に「生」を示すものが欠如し、急速に川の景観の魅力が薄れているように感じられた。信濃川との合流地点の手前には酒屋湊があり、川港として重要な役割を果たしてきたが、わずかに漁船が停泊できるような箇所がある。

3.5 信濃川景観 36 景カードの作成

信濃川ウォーターシャトルによる新潟 - 分水間の航行調査と長岡 分水間および小阿賀野川についてのカヌー調査を受け、信濃川下流域で景観の優れていると思われる箇所を 36 箇所抽出し、信濃川 36 景として景観カードにした。景観カードには各ポイントの概要、周辺の写真、米軍撮影の航空写真、「信濃川下流写真集」(信濃川下流事務所)による航空写真(小阿賀野川に関しては新潟市ホームページと阿賀野川工事事務所ホームページより、分水 - 長岡間に関しては平成 13 年撮影の航空写真および信濃川工事事務所ホームページより)を掲載した。

<抜粋>カードを示す。

信濃川 36 景



2. 万代橋

- ・ 万代橋は新潟市のシンボルといえる。
- ・ 万代橋の歴史は長く、明治初期に一代目万代橋が建設され、現在三代目となっている。
- ・ 一代目は木橋で日本の近代土木の第一人者ともいえる古市公威が設計し、三代目は田中豊・福田武雄らが当時最新の技術を用いたコンクリート橋である。
- ・ 現在、万代橋は近代化遺産として、重要文化財指定がなされており、歴史的財産としての価値が高まっている。
- ・ また、重要文化財化を受け、照明の復元工事が行われている。
- ・ 橋の欄干高さが道路の基準を満たしていないが、景観や歴史的背景を考慮し、現状維持が決定した。

